

交差点、右折時、横断中の女性はね重傷負わず ◆青信号になった直後に右折 確認不足◆

[2015/2/2 11:55]

1日午後7時半ごろ、熊本県で軽乗用車が横断歩道を渡っていた女性をはねて重傷を負わせる事故があり、車を運転していた77歳の男が現行犯逮捕された。警察によると、男性容疑者は軽乗用車で交差点を右折した直後に、横断歩道を渡っていた歩行者をはねた疑い。容疑者は1人で買い物から帰宅するところで、「直前に歩行者に気付いた」という趣旨の話をしているという。現場は信号機のある交差点で、容疑者は青信号になった直後に右折したとみられるが、ブレーキの跡は残されていなかった。警察は容疑者の不注意が原因とみて調べている。

- ・正面衝突は、12～14時に多い (ハンドルやブレーキなどの操作ミスが原因)
- ・人対車両は、16～20時に多い (前方不注意が原因)

- ・市街地、交差点付近の凍結路面で追突、衝突
- ・慣れにより、路面のすべりやすさを忘れてスリップ
- ・交差点付近は、雪山で見通しも悪くなり、出会い頭の衝突や歩行者との事故が多く発生

バック時は 降りて確認 乗っても確認

追突、玉突き事故を防ぐ
交差点手前で止まる時は車1台分のスペースを空けて止まる

交差点 「右左確認／よ～し！」

- ◆左折時は、死角を認識し、安全確認
- ◆右折時は、対向車だけでなく、横断歩行者にも注意

免許失効のまま都営バス運転

2015年2月3日(火)1時54分

都営バスの乗務員が3週間以上にわたり免許が失効していることに気づかぬまま、無免許状態でバスを運転していたことがわかりました。免許失効のまま都営バスを運転していたのは、運転歴23年の男性乗務員(50)です。この乗務員は、3週間以上前の先月8日から運転免許証の有効期限が切れていましたが、2日まで気づかずに無免許状態で都営バスを運転していたということです。この乗務員は、「免許の有効期限を1年後と勘違いしていた。うっかりして気づかなかった」と話しているということで、東京都交通局は今後、全ての乗務員の免許証を確認し、再発防止に努めるとしています。

凍結路面、救助の女性、後続車にひかれ死亡

2015/02/02

1日午後3時半ごろ、秋田県の東北自動車道のトンネルで、大工の男性(59)の軽ワゴン車が縁石に乗り上げて横転した。助手席に乗っていた妻(57)が車外に出た直後、後続車にひかれ、約20分後に死亡が確認された。男性も右肩打撲の軽傷を負った。横転後、後続車7台が追突事故を起こしたが、他にけが人はなかった。横転後、男性がぐったりしていた妻を救助しようと車外に引っ張り出した際、妻が後続車にひかれたという。夫妻は帰宅途中だったとみられる。事故当時、路面は凍結状態だった。

午後4時 スリップ、正面衝突、女性2人重傷

2015年2月2日(月)13時3分

秋田県の市道で1日午後4時35分ごろ、秋田県警の巡查部長(32)の捜査車両が、農業の女性(65)の軽トラックと正面衝突。女性と助手席の母(84)が、それぞれ首の骨が折れるなどの重傷を負った。巡查部長と助手席の50代の男性巡查部長にけがはなかった。同署によると、現場は片側1車線のカーブ。捜査車両がスリップして中央線を越え、対向車線に進入したという。巡查部長らは業務を終えて署に戻る途中だった。捜査車両は四輪駆動車で赤色灯はつけていなかったといい、詳しい事故原因を調べている。次長は「署員が起こした事故で大変申し訳なく思っています。今後このようなことがないよう、事故防止に努めてまいります」とコメントした。